

老舗名	榛原 A組 2班
Q.1	<b>榛原では和紙をつくるのに何日くらいかかりますか。</b>
A.1	当社では和紙そのものは作っておりません。純粋な和紙は、天然素材の楮(こうぞ)、雁皮(がんび)、三桠(みつまた)などの植物の甘皮部分を原料とし、伝統的な工程を経て手漉きされる紙で、現今では土佐(高知県)、伊予(愛媛県)、越前(福井県)などの限られた山間集落で生産されるものです。専業であれば、春の楮畑の手入れから晩夏の刈り取り、秋から寒中に及ぶ製紙作業までほぼ一年がかりといえます。
Q.2	<b>和紙でしか作れないものはありますか。</b>
A.2	よく知られているものとしては、我が国の高額紙幣。伝統行事に使われる用材(玲：東大寺二月堂でのお水取り法衣)。寺社仏閣祭事での用材、復刻版画。古文書や絵画の修復用材など。
Q.3	<b>一番売れている商品は何ですか。</b>
A.3	当店は、和紙生産家と需要家を取り持つ和紙販売業です。それに紙を加工して種々の日用品の姿としてお客様の御用に供する二次製品の販売店でもあります。社会一般の需要としては、洋紙界の新聞・雑誌・書籍用紙や段ボール等梱包材などがありますが、当店での売れ筋は、古来この国の精神生活を愛でる人々に必要な書写用紙(手紙や封筒、綴り本や贈答用金封)などがあります。
Q.4	<b>他の店にはない榛原ならではの商品がありますか。</b>
A.4	当社では、この国の書簡形式である巻紙にヒントを得て、独自の製法により各折り目にミシン目を入れ書き終わった所で切る事が出来る蛇腹便箋を開発し、顧客の皆様の好評を得ております
Q.5	<b>洋紙を日本で初めて輸入したと聞いたのですが、なぜ和紙だけではなく洋紙も取り扱うことにしたのですか。</b>
A.5	長い時代を紙商として生きるには、その時代が必要とする商品を創意工夫で供給し続けなければならない、その試行として文明開化期に西洋の紙を取り扱ったものと思われま。ちなみに幕藩期に日本橋に密集していた紙商の多くは、その後洋紙業界に転じ今日に及んでいます。
Q.6	<b>和紙は大量に買われることがありますか。</b>
A.6	安定した需要の紙幣用紙は別として、諸般の事情から手漉き和紙は大量の需要には耐えられません。寺社仏閣の内装などで周到な準備(画材手当など)を経て一応のスポット的需要が生じる事があります。
Q.7	<b>それはどんな時ですか。</b>
A.7	過去には明治政府の内務省令により、選挙人名簿及び投票用紙に指定された西の内紙(にしのうちし：茨城県山片町)や程村紙(ほどむらし)のように全国展開された例があります。
Q.8	<b>どんな世代の人が買っていくのですか</b>
A.8	手漉きされた和紙しかなかった昔の人にとって紙は生活必需品でしたが、今日では主に精神文化を愛でる人々の好む品としてあるようです。この社会が人間の世である限り、世代を超えた方々が買って下さるもののように思えます。
Q.9	<b>外国の人に買ってもらうために工夫していることはありますか。</b>

A.9	我が国の文化を身近に持ち帰って頂けるように、扇や団扇(うちわ)、木版刷りの版画絵、障壁屏風画を縮小版として複製した商品などの他、楮や雁皮材を経て一応のスポット的需要が生じる事があります。用いた風情ある耳付便箋などをご用意しています。
Q.10	竹久夢二さんと榛原とのつながりについておしえてください。
A.10	お店で実物を見ながらご説明致します。